藤樹先生 昔〜今

令和六年度「儒式祭典」開催

藤樹書院（公益財団法人）主催の「儒式祭典」が、九月二十五日に藤樹書院において開催されました。

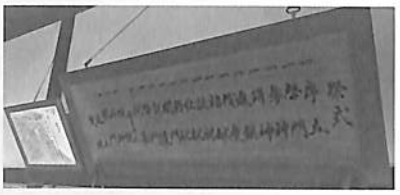
渕田豊朗理事長の開会のことばに続き、儒式の祭典が厳かに執り行われました。「賛主」、「助事」、「助奠」（二名）、「進盥」の祭官は、裃姿の地域の方々です。

藤樹書院のHPにある儒式祭典の説明では、

『（わが国では珍しい）文公家礼（中国の宋の時代に書かれた儒家の礼儀作法の本）により執り行われています。

昭和五十五年（一九八〇年）、市町村合併前の安曇川町から無形民俗文化財に指定されました。

藤樹先生の命日は明治六年一月一日から採用された太陽暦では慶安元年（一六四八年）十月十一日です。この日は太陰暦（旧暦）の慶安元年八月二十五日に当たるので、儒式祭典は、太陽暦変更後も八月二十五日に行われていました。暦の変更や学校行事の一環として児童が参拝できるようにとの配慮から明治十一年（一八七八年）から、ひと月遅れの九月二十五日に執り行われるようになりました。以後、九月の例祭として上小川村人により厳かに執り行われてきています。



それまでの祭典の形式は口頭伝承の形で受け継がれてきましたが、明治三十年（一八九七年）の二五〇年祭の時に京都の明倫舎と出雲路與通氏の助言指導を受け、現行の形に定まりました』と記されています。

祭式順序の通り行われました。

序立（隣室で祭官が手を清める）
啓門（助奠が神前の張を上げる）
参神（賛主が拝礼を四度する）
降神（賛主が焼香し拝礼を二度する）
進（神）饌（助奠が進盥から十種の山海の幸を受け取り運び、賛主が神前に供える）



侑食（賛主がご飯に箸を立て、藤樹先生の霊に食を勧める）
初献（賛主が酒と肴を勧める）
読祝（賛主が祝文を読む）
亜献（賛主が再び酒等を勧める）
終献（賛主がもう一度の酒等を勧める）



闔門（助奠が神前の張を降ろす）
（説遺）（賛主が**『藤樹規』**を読む）
啓門（序奠が神前の張を上げる）
献茶（賛主が茶と菓子を勧め、祭官四人が左に並び、参加者全員が焼香、拝礼する）
撤饌（山海の幸を神饌と逆の順序で下げ、隣室の進盥に渡す）





辞神（賛主が拝礼を四度する）
闔門（助奠が神前の張を降ろす）
送主焚祝（祝文を隣室の火鉢で燃やし、礼をして終了する）

藤樹規

大学の道は明徳を明かにするに在り、民に親しむに在り、至善に止まるに在り、天命を畏れ、徳性を尊ぶ
　右は持敬の要、進脩の本なり

博く之を学び、審かに之を問ひ、慎んで之を思ひ、明かに之を辨じ篤く之を行ふ
　右は進脩の序

言忠信、行篤敬、忿を懲し欲を塞ぎ、善に遷り過を改む、
　右は身を脩むるの要

其の義を正しうして其の利を謀らず、其の道を明かにして其の功を計らず
　右は事に處するの要

己の欲せざる所は人に施すこと勿れ、行得ざる有らば反つて諸を己に求む
　右は物に接するの要